

記録

35ミリ

カラー／30分

英・仏・西・独語版

- 企画
外務省

スタッフ

■製作

村山英治

大西雅夫

■監督

木村莊十二

島崎嘉樹

■撮影

大小島嘉一

塩瀬申幸

■音楽監督

宅 孝二

和田則彦

■照明

高橋一三

■編集

沼崎梅子

■解説

A・F・A・スミス

(英語版)

〔日本の童謡〕

1961年第3回ローマラジオTVコンクール児童劇部門第1位 第2回アルゼンチン国際児童映画祭短篇部門第1位 1962年第5回シダルク国際映画祭ジャンブノアレビー賞 第3回メキシコ国際児童映画祭第3位 第1回コロンビア国際文化映画祭撮影技術賞 1963年カナダ国際映画祭特別賞 日本紹介映画コンクール優秀作品賞

小泉文夫氏の調査では、この映画が撮影された頃には、東京の子供たちの間にもまだまだたくさんのわらべ歌が生きていた。この映画は、当時の貴重な記録である。



山々が秋の日ざしに輝き、小川に紅葉が流れ、水車がゆっくり廻っている。農家の縁先で若い母親が幼な子に子守歌を歌っている。

学校から帰った子供たちは、誘いあって神社の杜で遊ぶ。鬼が目隠しをして真ん中にしゃがむ。「かごめ、かごめ」。夕日のさす路上では、別のグループが遊んでいる。「通りゃんせ、通りゃんせ ここはどこ細道じゃ」「ずいずいずっころばし」「あんたがたどこさ」「ことろことろ」「縄跳びうた」。日が暮れて母親に呼ばれて帰る時でさえ、「なべなべ、そっこぬけ、そこがぬけたらかえりましょ」「夕焼け小焼け、あしたの天気、な一れ」。

幼稚園では、「お馬の親子はなかよしこよし……」とみんなが歌う。幼稚園の子供たちの生活は歌と遊びが中心だ。先生から習う童謡は、わらべ歌ではなくて現代の作詞作曲による新作が多い。「雀の学校」「お山の杉の子」「夕日」等。

村の小学校では、オルガンの伴奏で新しい唱歌を教えている。「しょう、しょう、証城寺」。日本の小学校では、子供たちは音楽教育として遊びから離れて歌を習う。「風」「靴が鳴る」「汽車ポッポ」「砂山」等。都会の子供たちが歌う唱歌も「赤とんぼ」のように、美しい日本の自然を歌ったものが多い。